

2008年7月4日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社  
インベストメントストラテジーグループ  
ジョン・ヴェイル

## 当面の投資環境について

米国での金融不安の再燃や、商品市況の高騰などを受けての世界的なインフレ圧力の高まりとその一方で世界景気の鈍化懸念などを背景に、債券・株式市場の不安定な動きが世界各地で目立つようになってきました。そこで今回は、当面の投資環境についての弊社の見解をまとめました。

米国の金融機関に対する信認は、7月半ば以降の4-6月期決算の発表を前に、アナリストが業績予想や投資評価を引き下げたことなどもあり、足元で再度、揺らいでいます。米国の住宅価格の下落が続いているだけでなく、商用不動産市況の悪化や個人ローンなどの焦げ付き増加も懸念される中、金融不安の払拭には時間を要するとみられることから、米FRB（連邦準備制度理事会）は、インフレ圧力の抑制よりも金融セクターの安定化を重視する姿勢をとると見込まれます。このため、米国では政策金利の引き上げが今後も見送られる可能性が高いと考えています。

こうした環境下、この7-9月期も、インフレ率の高止まりと景気鈍化懸念が並存することとなり、世界的に債券、株式市場の不安定な状況が継続するものと想定されます。ただし、米国株式については、5月以降の株価下落により、インフレや消費減速などの悪材料もある程度織り込みが進んだものと考えられます。また、日本株式については、TOPIXベースの配当利回りが10年国債利回りを再度上回ってきたことが、欧州株式については、日米に比べて株価バリュエーション面での魅力が高いことなどが、下支え要因になるとみています。

その後については、米国経済の減速などを背景に、10-12月期には世界的にインフレ率が落ち着き始め、債券市場に安定感が戻ると見込まれます。一方、株式市場の上昇傾向が世界的に鮮明になるのは、もう少し先になる可能性があります。その主な背景としては、米国経済が回復に転じるのが、来年半ば以降になると見込まれることが挙げられます。ただし、新興国については、やはり経済成長の鈍化が見込まれるものの、消費の拡大を中心として、世界経済の成長に引き続き寄与することでしょう。こうしたことから、世界の株式市場については、短期的には一進一退、ないし弱含みが見込まれるものの、中長期的には、引き続きポジティブな見方をしています。

---

■当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

為替については、米国の低成長、金融不安、政策金利の引き上げ見送りなどを背景に、ドルが対円で下落すると見込まれるものの、そのペースは鈍化すると考えています。

このように、向こう半年程度の投資環境は良好と言える状況にはないとみられますが、弊社では、日本株式への長期投資やグローバルな資産分散投資が、賢明な投資方針であると引き続き信じています。

以上

*John F. Vail*

---

■当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。